

上村松園・松篁・淳之展

◇ '90年6月8日(金)~7月1日(日) ◇

開館/午前9時~午後5時(初日は午前10時より開展、毎週金曜日は午後7時まで)月曜日は休館
入場料/一般800円 高・大生400円 小・中生200円 前売り・団体20名以上は2割引



上村松園「春宵」奈良県立美術館蔵
(上の作品は6月21日まで展示します)



上村松篁「星五位」東京国立近代美術館蔵



上村淳之「雪中遊禽」

高松市美術館

主催/高松市美術館・朝日新聞社四国総局・瀬戸内海放送



上村松園「砧」山種美術館蔵
(上の作品は6月22日より展示します)



上村松篁「丹頂」



上村淳之「晨 I、II」文化庁蔵

うえむらしやうえん しょうこう あつし 上村松園・松篁・淳之展

激動する美術思潮の流れを背景に発展してきた明治以降の日本画壇。その変遷の中で、この三人の画家たちは美を生み出す精神を静かに受け継いできました。

上村松園は明治8年京都に生まれました。幼い頃より絵を描くことが何より好きだったという松園はやがて鈴木松年、幸野樗嶺、竹内栖鳳ら京都画壇の巨匠たちに学びます。そして当時の女性には厳しかったに違いない画家への道を、才能と努力で乗り越え、明治大正昭和を通じて官展に傑作を発表し続けました。そのしなやかで気品に溢れる美人画は、松園を女性初の文化勲章受章者に輝かせました。

上村松篁は明治35年上村松園の長男として京都に生まれました。母の精神を受け継ぎ、ごく自然に画家への道を選んだという松篁は、19才で帝展に初出品し入選します。その後も独自のリアリズムを追究した作品を発表しますが、昭和23年当時の画壇の在り方に悩む若い作家数人と、日本画の革新と世界性を目指して、創造美術協会(現在の創画会)を結成しました。伝統を見据えながらも新しい花鳥画の世界を切り開いてきた松篁は、昭和59年文化勲章を受章し、現在も第1人者として活躍しています。

上村淳之は昭和8年上村松園の長男として京都に生まれました。創画会で活躍する一方で、京都市立芸術大学で教授として後進の指導に当たっています。自宅に千羽をこえる鳥を飼育しながら、鳥を主題に描く淳之の眼は、西洋の科学的、合理主義的な視覚を経験した上で、あらためて東洋独自の視覚を探り続けます。その澄み渡る画面の空間表現は、現代日本画の新たなリアリティを確立するものと言えるでしょう。

この展覧会では、京都日本画壇の名門上村家三代の代表作約70点をご紹介します。時代の移り変わりど、それぞれの魅力をどうぞお楽しみ下さい。

●上村淳之講演会

《モデルたちと…》

6月10日(日)

午後1時30分より講堂にて
(美術館1階)

入場無料 先着200名様

●次回の展覧会

—日本の美—
《名刀展》

7月7日(土)～7月22日(日)